

豊中市社会福祉協議会の活動概要

CSWの取り組みを通じて



マスコットキャラクター“ビーのん”
よろしくね！！



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 勝部麗子



はじめに

- 生活困窮者自立支援法で始まった「断らない福祉」
- 生活支援コーディネーター、CSW、生活困窮者自立支援法で求められる地域づくり
- 我が事・丸ごとの地域共生社会づくり



1,豊中市社会福祉協議会のCSWの取り組み

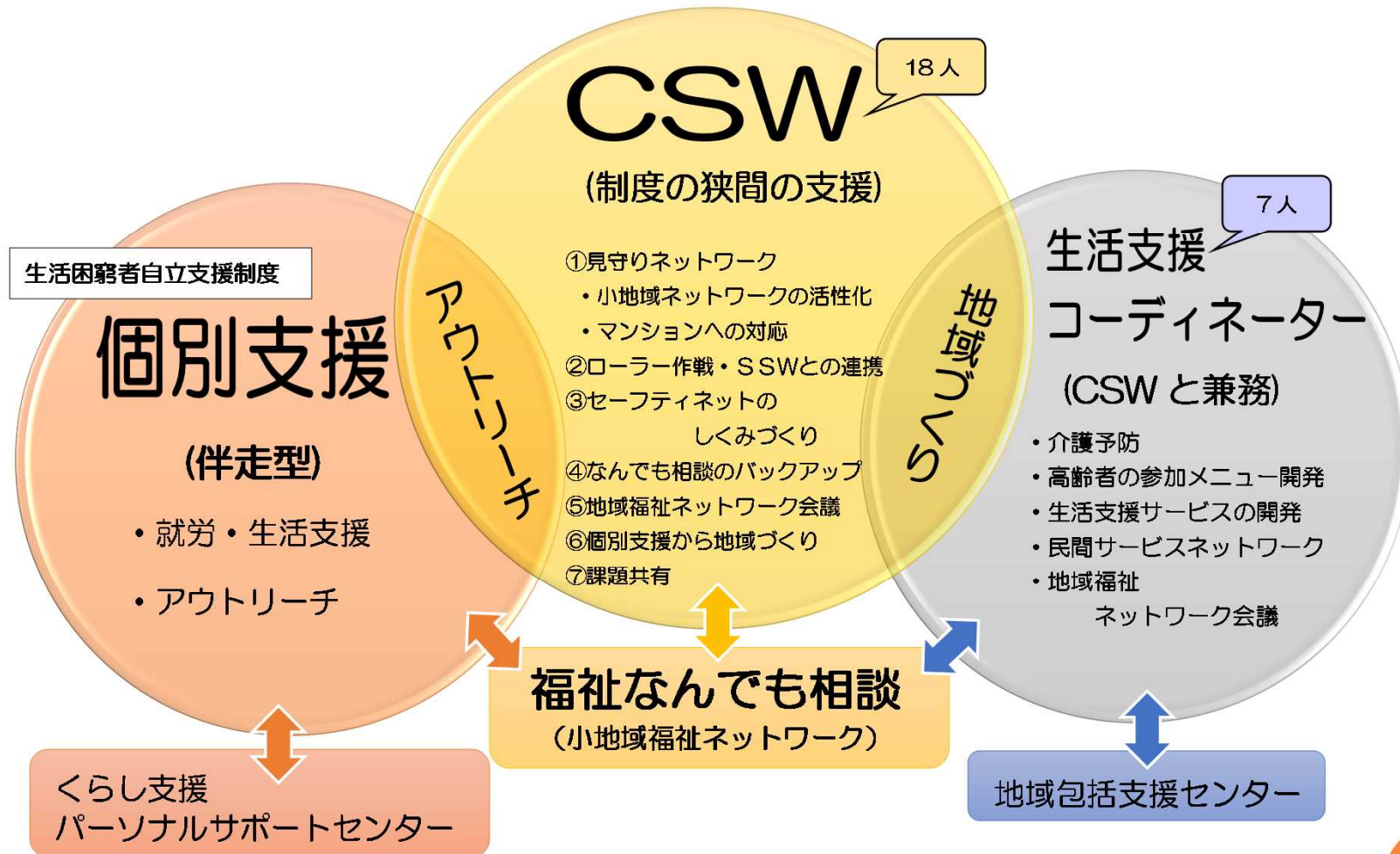
- ①制度の狭間から地域づくりへ
- ②住民と協働するワーカー
- ③ライフセーフティネットの仕組み
- ④プロジェクト会議(出口づくり)

総論賛成各論賛成 排除しない地域づくり

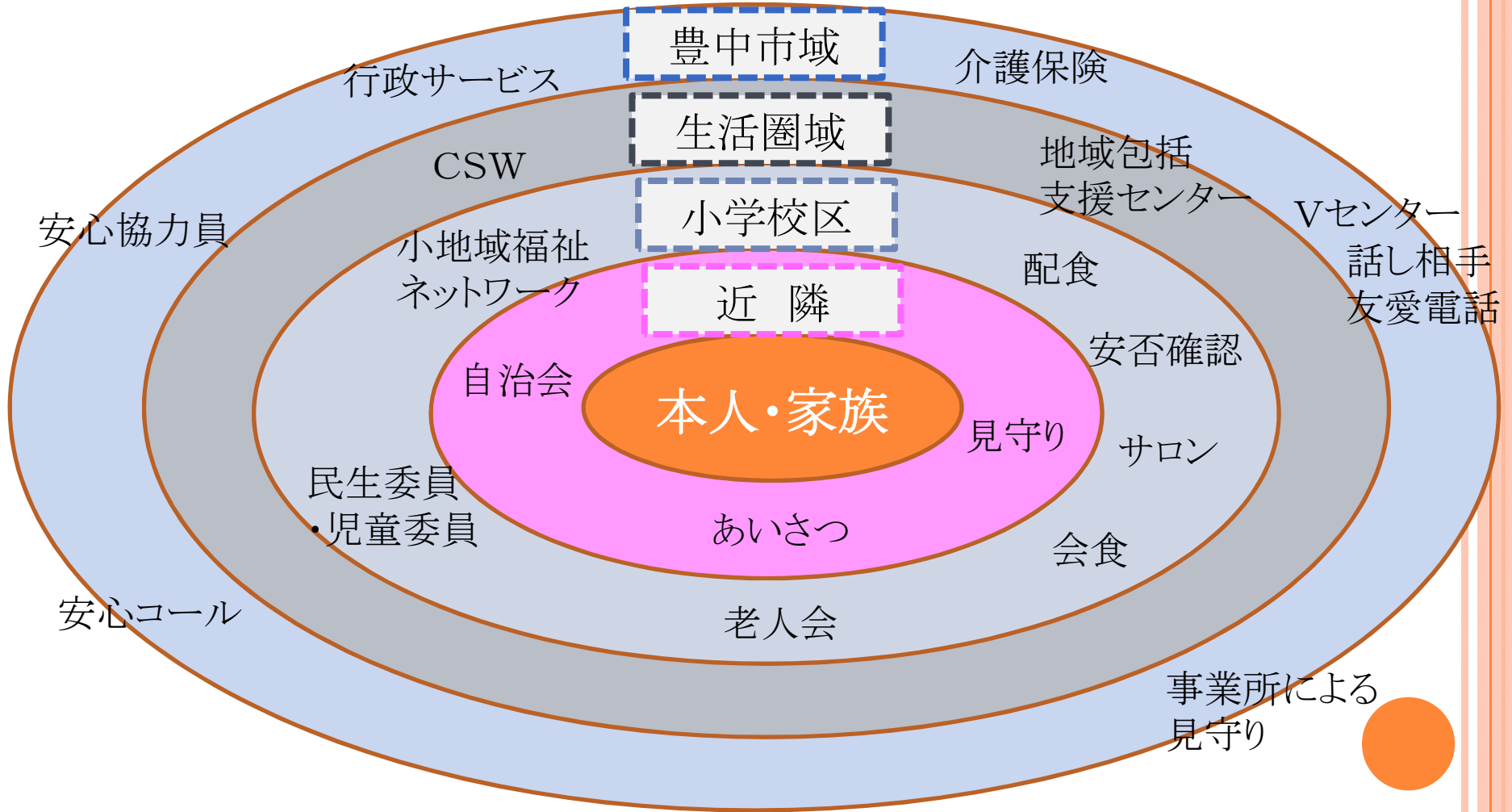


【地域福祉推進専門職の役割】

豊中社協(案)



①豊中における見守りの方法



②校区福祉委員会活動

個別援助活動・・・見守り・声かけ活動・個別支援

グループ援助活動・・・ふれあいサロン

世代間交流・ミニデイサービス

会食会・子育てサロン

その他・・・災害時の安否確認事業

子どもの安心安全見守り活動

福祉なんでも相談窓口



校区福祉委員会活動

福祉なんでも相談窓口（小学校区ごとに設置）

- 身近な福祉相談の実施と専門機関への取次ぎ
- 地域住民が集う、交流ふれ合いの拠点
- 福祉サービスに関する情報、ボランティア情報、地域福祉活動情報の受発信
- 概ね週1回、2時間開設

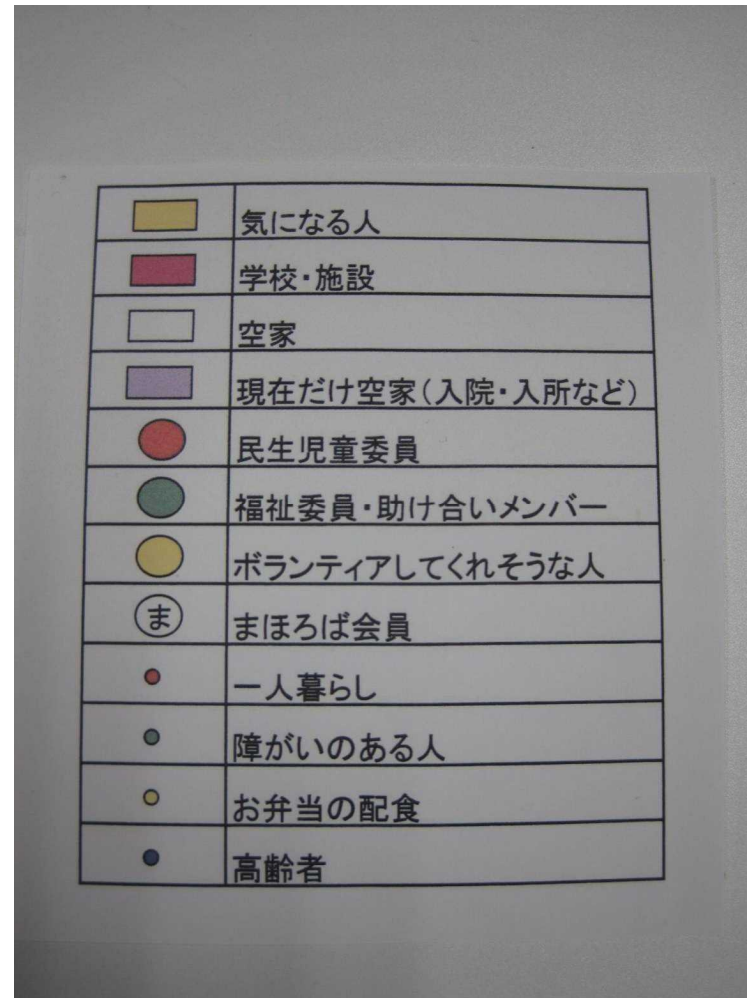
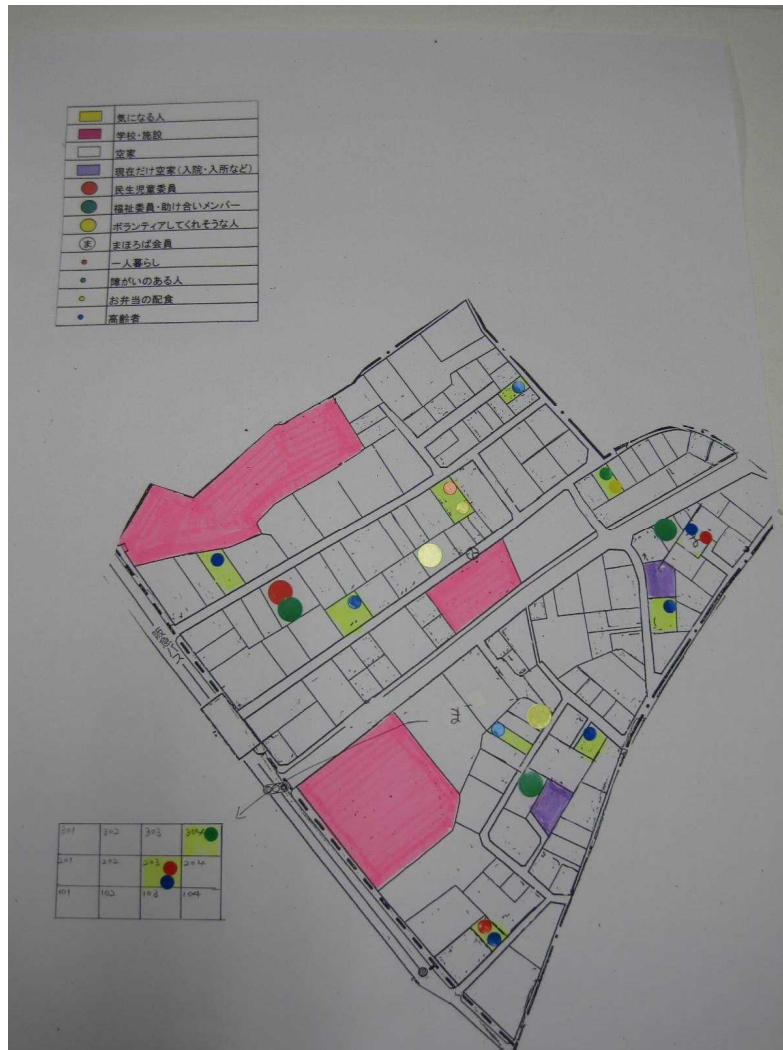


ローラー作戦

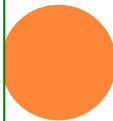
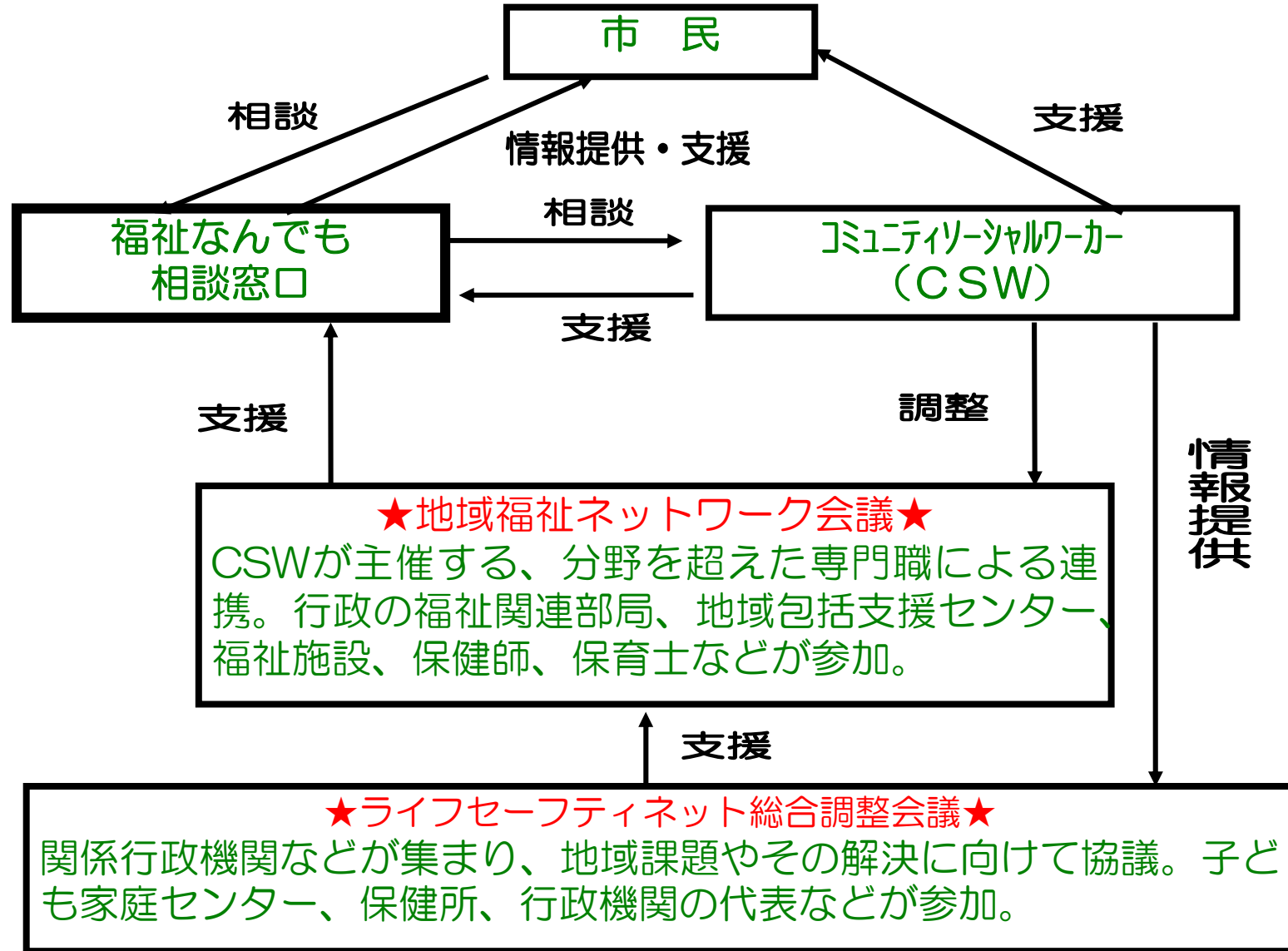
年間3600軒



見守りマップ



豊中ライフセーフティネットの仕組み



コミュニティソーシャルワーカーの 取り組み

相談者

本人・地域住民・民生委員など
関係機関職員
行政担当課、保育所・施設など
福祉なんでも相談窓口

問題解決

公民による支援のコーディネート
行政制度でサポート
ボランティアによる支援
校区活動による支援
困難事例についてはケース検討会

相談

CSW

調整



大阪府の定めるCSW
養成講座を修了しています



コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の役割は？

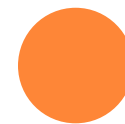
- 福祉なんでも相談窓口のバックアップ
 - ・社会的援護を要する人々への対応
 - ・複数機関の連携による支援が必要なケース
 - ・公民協働でのサポートが必要なケース
 - ・地域との関係調整が必要なケース
- 地域福祉ネットワーク会議の運営
- 地域福祉計画の支援
- セーフティネットの体制づくり
- 要援護者に対する見守り・相談



③コミュニティソーシャルワーカーの 取り組み 個別支援から仕組みづくり

○協働プロジェクト

- 福祉ゴミ処理プロジェクト
大量ごみの処理についてのルール化を図る
- 徘徊SOSメールプロジェクト
携帯電話を使ってのまちぐるみのネットワーク
- 各種交流会の開催 同じ立場の介護者をつなぐ
 - 高次脳機能障害者家族交流会&自主グループ化
 - 広汎性発達障害者の家族交流会&自主グループ化
 - 男性家族介護者交流の集い
 - 若い家族介護者の交流会
- 8カ国語の地域福祉ガイドの作成



空き家を使ったサロン



マーじゃん



なんでも相談



食事サービス



豊中東区



宅地の無償貸与





畑で育つシニアの輪

豊中市協 都市型農園を開設

野菜作り講座 17日から



「豊中あぐり」の開園式で、畑にキュウリの苗を植える関係者ら（4月23日、豊中市で）

農業を通じて新たな人々へのつながりを作ろうと、豊中市社会福祉協議会は、同市岡町南に都市型農園「豊中あぐり」を開設した。団塊世代すべてが75歳以上となる2025年を見据え、体を動かすことで介護予防もつなげようと、17日から野菜作りを学ぶ講座を始める。関係者は農園を拠点に、特にシニア男性の社会参加を呼びかけたいと意気込んでいる。（小坂田基）

住宅に囲まれた豊中あぐりは元々、約370平方メートルの空き地だった。所有者の男性が昨年秋、ボランティアによる地域福祉活動を紹介する同社協参事・勝部麗子さんの講演を聞き、市民活動に役立ててほしいと同社協に申し出た。今年3月に無償で貸し出した。市内では、同社協を中心に、配食サービスや食生活の開催など様々な活動が行われ、ボランティアが地域の担い手となっている。ただ、参加者のほとんどは女性。「特に中年の男性はこうした活動に戸惑っているのか、参加が少な」と勝部さんは言う。



「あぐり」で行った認定した。スリッパを行った認定した。

「空き地を中高年の男性が地域活動に参加できるようになるような場所を、ぜひ」と同社協の担当者らが検討。農作業は力仕事も多く、男性にも適している。野菜の栽培を通じて介護予防にも効果が期待できるのではと考え、農園を開くことにした。

静かな住環境が守られるが、近隣の住民を対象に説明会も開いた。ボランティアが周辺の溝を掃除したり、近隣の住宅との間に切りになるブロック塀やフェンスを撤去したりするなどの環境を整えた。空き地の砂利を取り除き、地面を掘り起こした。新しい土に堆肥を混ぜ、畝を作り、農園として完成させるのは4月23日に行われた開園式では、ボランティアや同社

協の関係者が集まり、記念にキュウリの苗を植えた。「人がつながり、認め合い、支え合う空間を創出していきい」と勝部さん。将来的には、野菜の直売のほか、料理教室やボランティア講座などを開き、認知症患者や車いす利用者も参加できる場を目指す。講座「豊中あぐり塾」は5月17日、7月5日の毎週火曜日の計8回開催。元園

歴史の舞台でお食事

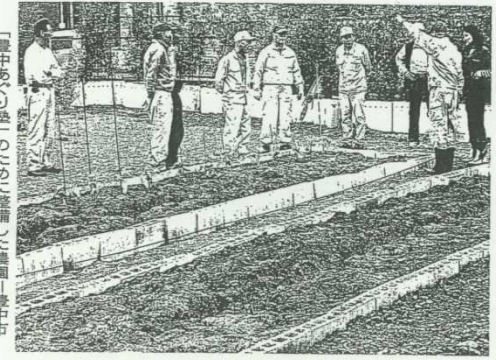
大阪迎賓館 レストランきょう 1985年のアジア太平洋経済協力会議（APEC）の会場となった「大阪迎賓館」大阪府中央区が、予約制のレストランを改装され、12日に内覧会が開かれた。13日にオープンする。同館はAPECの会場として、大阪府が「茶城（京都市）の白晝院をモデルに大阪城公園西の丸庭園に建設した。同館で行われた非公式首脳会議は、当時の村山首相、中国の江沢民

「と歩行者」「と歩行者」

農園

豊中市協 シニア男性向け講座

定年後の居場所は



「豊中あぐり」のために整備した農園。豊中市

豊中市社会福祉協議会が、シニア世代の男性を対象にした農業と地域福祉を学ぶ講座「豊中あぐり塾」を17日から開く。定年退職した男性は女性よりも地域活動への参加が少なく、居場所づくりと健康維持がねらい。住宅街の農園で野菜を作ったり、座学で介護予防を学んだりする。社協は今後、健康寿命をのばす拠点として、市内に農園を広げていく方針だ。

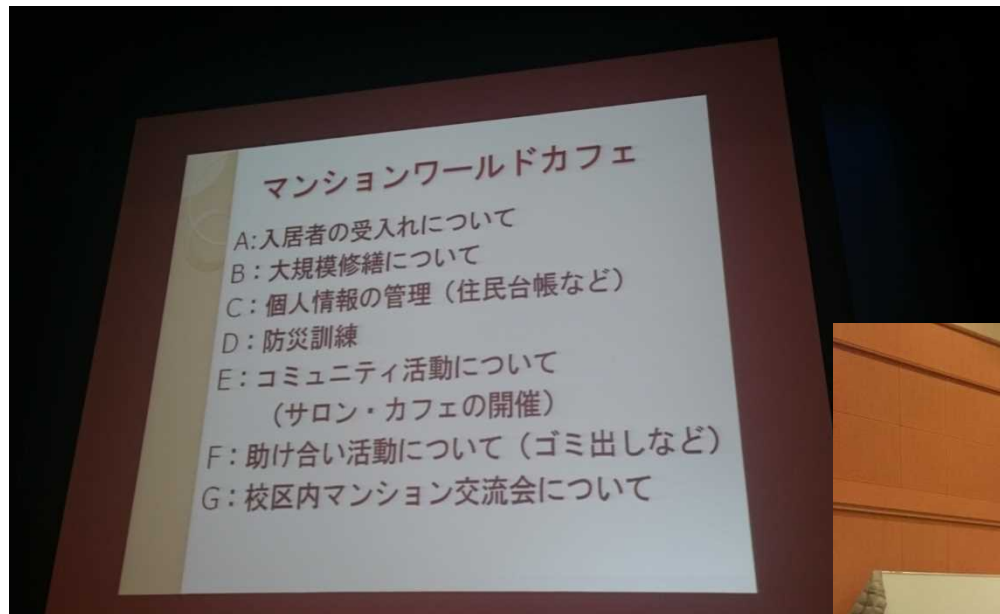
健康・仲間づくり「大人の遊び場になれば」

「豊中あぐり塾」の農園は阪急岡町駅近くにあり、広さは約370平方メートル。元は住宅があったが所有者が更地にして、昨秋、「土地を社協の活動で利用してほしい」と申し出た。社協は都市型農園として使うことになり、ボランティアらで畑を整備して4月下旬に開園した。講座は今年17日から7月5日まで、毎週火曜計8回を予定。60歳以上を対象に農園ではキュウリやナス、トマトなどの野菜を栽培する。元園芸高校教諭の開発基良さん（66）や社協の職員らが講師を務め、収穫した野菜は販売することも検討している。開発さんは「みんなが新鮮な野菜を育てる楽しさを経験してもらいたい」と話す。

社協は今後、同様の講座を定期的に開き、農園を各地に広げていく方針。勝部麗子・福祉推進室長は「都市型農園を活用して男性の社会参加を促し、健康寿命をのばしたい。大人の遊び場と仲間づくりの場になれば」と意欲を見せる。あぐり塾の定員は20人程度。参加費は材料費と資料代として5千円。毎回、農園で水やりなどの作業がある。問い合わせは社協地域福祉課（06・6848・1279）。

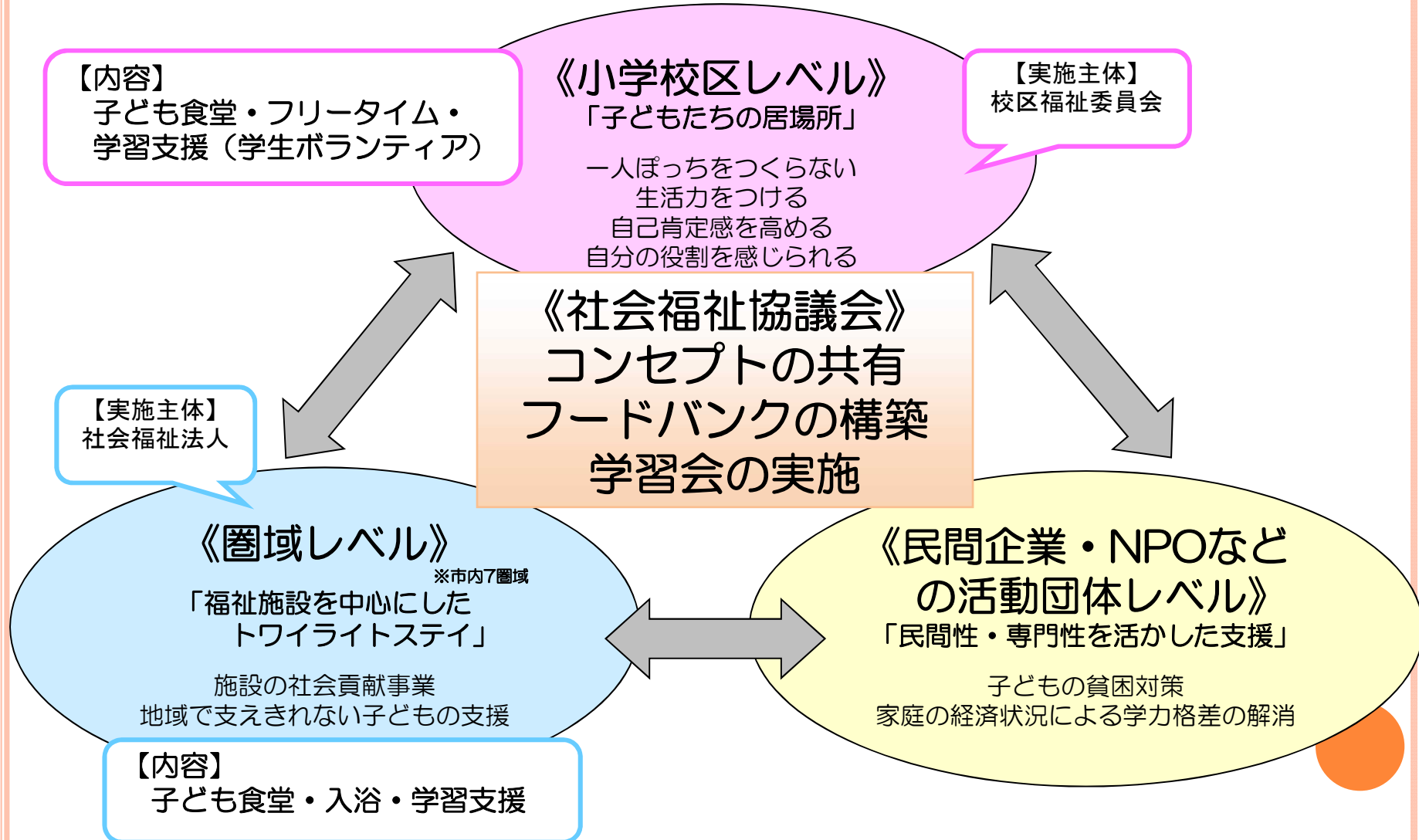
（吉村治彦）

マンションサミット



子どもの居場所づくり地域福祉モデル事業

～子どもの居場所ネットワークの構築～



庄内南みんなの食堂



桜塚さくら食堂



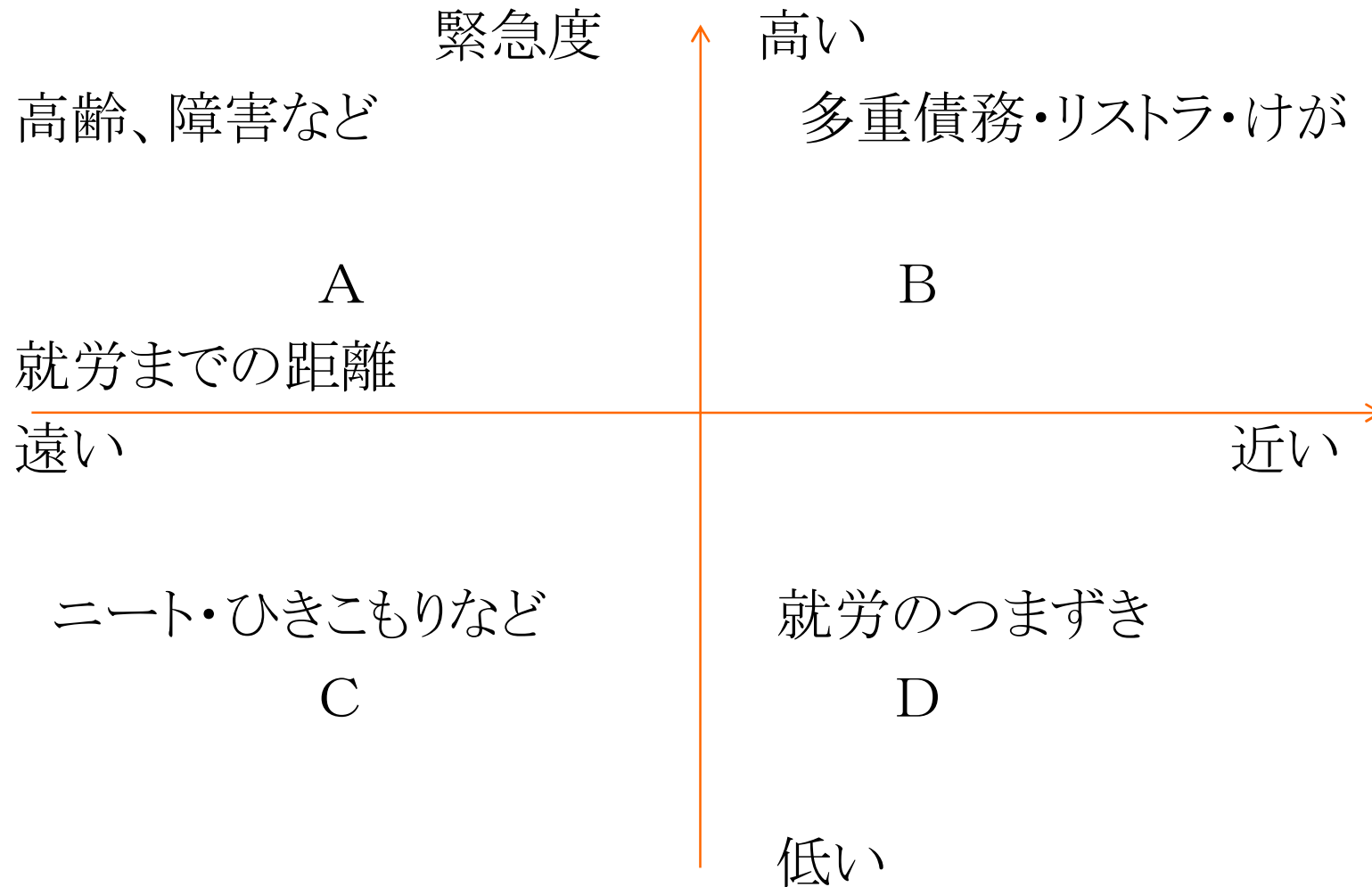
福祉便利屋事業 住民主体の運営委員会



福祉便利屋(住民主体B1)の取組 200円/15分の支え合い

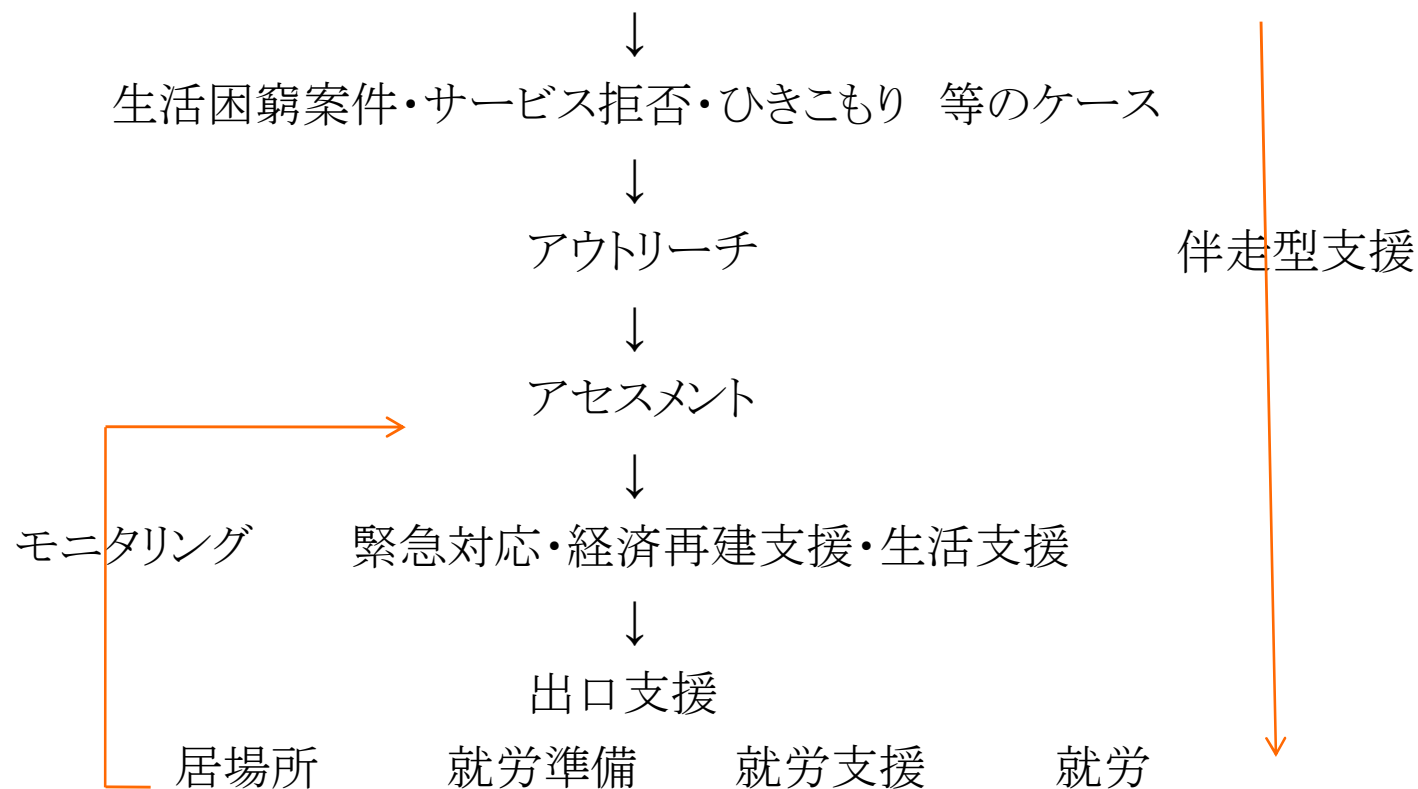


4,生活困窮者の対象



5,豊中の総合相談とアウトリーチ

地域住民・なんでも相談・事業所・大家、管理組合・貸付・学校・民生委員等



- 行政の窓口は公共料金の滞納世帯が把握



生活困窮者・社会的孤立者の 早期発見・支援のための検討会議



豊中の困窮者支援相談特徴

- 資源ごみ持ち去り禁止条例と連携支援 30件
- 地域からの相談発見 ローラー
- 引きこもり相談 8050 就労支援モデル
- 相談件数 569件 10代 1件 20代 20件 30代 40件
40代 73件 50代 61件 60～64歳 17件 65歳以上 64件
- 善意銀行貸付 16件
- 食材物品支援 69件
- フードドライブ 2回
- 住み替え支援 38件
- 社会貢献費用 4件
- リユース 6件



豊中の生活困窮者支援①

生活困窮者支援緊急支援

- 貸付、日常生活自立支援、なんでも相談などからの生活困窮者の伴走支援→CSWへ
(緊急対応、多重債務整理、年金手続き、住宅探し、制度利用、就労支援等)
- 善意銀行の生活困窮者貸付
- 民生委員助け合い資金
- 物品提供(衣類、食糧、リユース)
- 施設 社会貢献費用との連携



豊中の生活困窮者支援②

- CSWの相談の中で対応が難しかった就労まで距離のある若年の支援(ニート・ひきこもり・リストラ・ホームレス等)
→就労準備的な活動 *本人との目標設定(PSプラン)

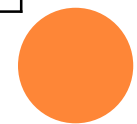
居場所→就労プログラム→就労体験→就労

- ①居場所...週4回(生活面と自己肯定感、仲間意識)
- ②就労プログラム2時間一コマ 活動費支給
- ③就労体験...新聞配達、団地の草ひき、買物支援、パン屋さん
農業、林業、うどん屋さん等
→職域開発地域のネットワーク発揮 活動費支給
- ④ビーの×マルシェでの定期的な就労体験
- ⑤就労訓練...パートで一定期間仕事に就く(この間就活)
- ⑥就労支援...就労支援センター・ハローワークとの連携



ステップアップ

アウトリーチ	居場所参加	中間的就労	就労体験	就労準備	一般就労
家庭訪問 家族会参加	生活支援	500円/2H	新聞配達	就職活動 地域就労支 援センター	OB会



豊中びーのびーのプロジェクト

- 対象：発達障害，引きこもりなどで就職に距離がある人
- 活動費：1コマ（10:00～12:00，13:30～15:30）につき500円
- あらかじめ、プログラム予定表を作成し、参加したいプログラムにエントリーしてもらう

★プログラム参加の中でオーダーメイド型の支援を行う



プログラム進捗状況（就労体験）

○就労体験プログラム…ジョブサポーターと共に仕事を体験

- 出前市場のサポート…府営住宅での出前市場の際、



お買い上げの商品を家まで運ぶ

- 情報誌、夕刊配達





びーの×マルシェ

この店 社会への一歩

ひきこもり経験者がスタッフ

豊中市宝田町の住宅街の一角に目新しい野菜や果物などの商品を扱う店「びーの×マルシェ」がオープンする。スタッフの多くはひきこもりを経験した若者。社会へ一歩を踏み出す場として、市社会福祉協議会（社協）と市売菜販売団体の連合会が共同で運営する。カフェのスペースも設けられ、関係者は「地域に親しんでもらえる店に育てたい」と意気込んでいる。（小坂田 由紀）

オープンに向けて打ち合わせをするスタッフら（豊中市で）

市社協が01年度から、ひきこもりの人たちの就労を支援する事業「豊中びーのびー」を期間限定で参加者は野菜作りやパソコンを使った入力作業などに取り組む。仲間作りも行っている。これまで90人ほどが通い、30人程度が就労したという。

今年に入り、市内の社会福祉法人から、かつて作業所だったが、現在は使用していない建物を無償で借り受けるところで、約40平方メートルの店舗に改装。「びーの×マルシェ」を名付けた。

市社協福祉推進課長の藤部 聡子さんは「市内には2300人のひきこもりの人がいる」と推測されており、

食品販売 豊中あす開業

就労に向けたスタッフとなる場を作りたかった」と店を開業の理由を説明する。開業は約12月15日。約100店舗が加盟する同連合会も企画。各加盟店が、その日の店販売する野菜や果物や米、パン、惣菜などを並べる。スタッフはひきこもり世代の20歳代から40歳代までの参加者約10人で、毎日交代で、8人ずつが働く。加盟店の店主らも来て接客商品の陳列、金銭管理を指導する。同連合会によると、周辺で作っている「ホルダー」内の販売も予定。100円でコーヒーが飲めるカフェのスペース用意して、スタッフの女性には「客さんや仲間もらえるよう、心を込めたコーヒーを入れた」と話す。2週間分を、さまざまな人たちの交流場にする構想もあるという。藤部さんは「買い物を通じてスタッフの社会参加を促してほしい」と呼びかけている。

営業時間：11月の午前8時～午後6時、12月は午前10時から。問い合わせは同社協（06・6604・0000）1749へ。



事例①ごみの片付けから生活改善につながったケース

ごみ屋敷状態で住めなくなった家があることを相談



本人宅を訪ねる(なかなか会えない)



子供たちはすべて不登校
母親はネグレクトとして見られていた



地域住民と家を片づける



登校支援



生活改善

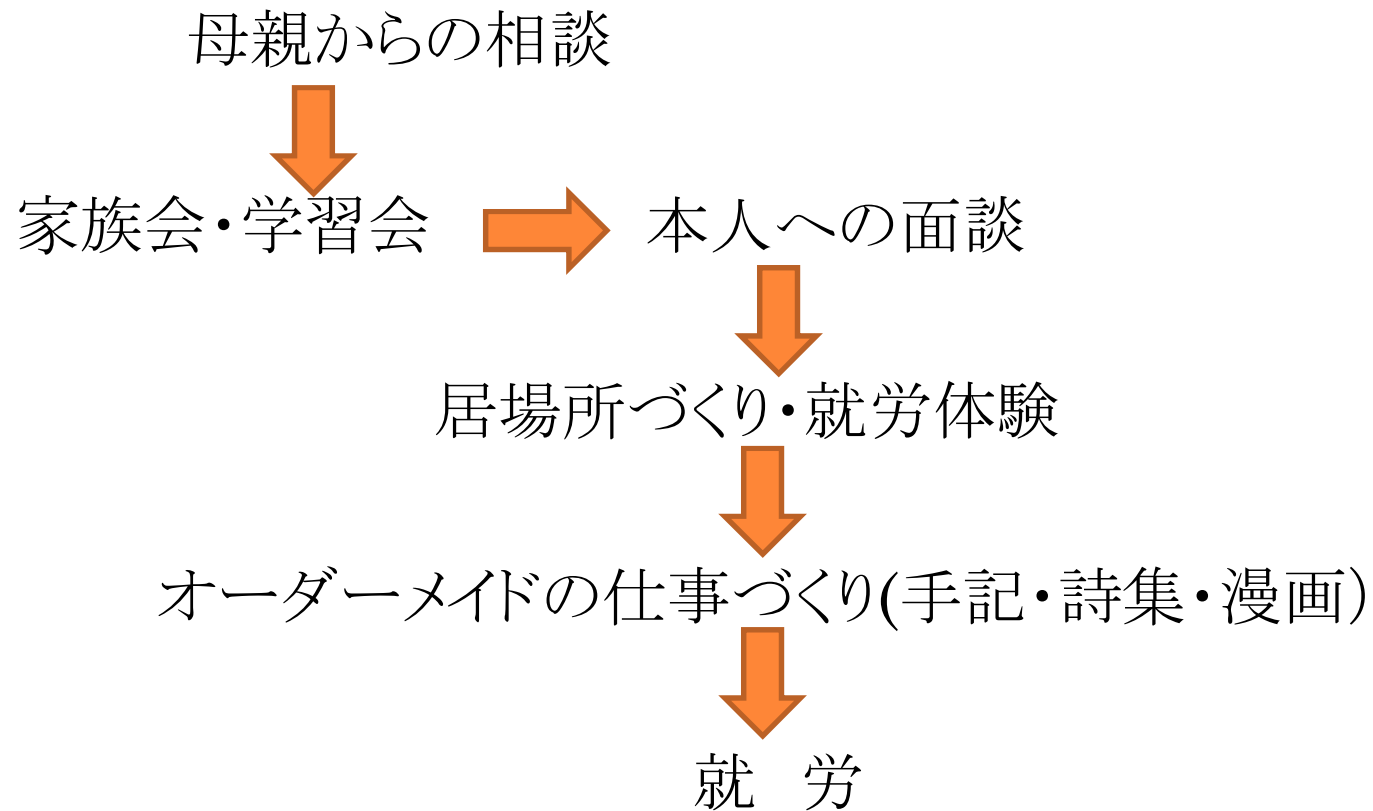
こどもは学校に行ける



就労支援



事例② ひきこもり



事例③ リストラ・生活破綻

近隣からの相談



家庭訪問(接触できず何度も訪問)



本人と遭遇・面談約束



面接(生活の問題整理・制度紹介)



生活保護



就労励まし*市に本人の代弁



就労決まる *毎日報告にくるようになる



債務整理



事例④ 多問題家族

福祉なんでも相談に生活苦の相談が入る

娘が働けない、孫娘が戻ってきた、孫息子がグループホームに入って障害年金がなくなった



母の年金とたくわえですべての生活を支えている



関係者会議と介護保険の申請



娘支援

通院・就労支援



孫娘支援

児童扶養手当・世帯分離生活保護



孫息子

土日分の生活費を入れる



事例⑤ 50代中途障害者の就労支援

脳卒中で職場を退社



親の介護をしながらリハビリ



両親を失い住宅ローンに悩み酒びたりの日々

近隣から敬遠されるようになる



生活保護と介護保険の申請(サービス拒否)



就労を約束



生活改善

就労準備

ローン設定変更



総合相談の10の鍵

- 入口と出口づくり
 - 入口 早期発見ネットワーク 解決力が発見力
 - 出口 一般就労だけが出口ではない
ひとりひとりの役割がある
- 本人の自己肯定感を高める 徹底した本人尊重
- 翻訳機能 行政と本人 事業所と本人 地域と本人
- SOSを言える気づける地域づくり
 - 知ることによって優しさが生まれる
- 開発力 ないものは作る セーフティネットを作る事業
緊急小口資金・フードバンク



- できる・できないのジャッジのワーカーではいけない
本人の生活から支援を組立てる
- 家族全体の見立てが大切
包括から見たら虐待？ 息子支援は？
保護か？就労支援？
- スモールステップを積み上げる 本人と目標を共有する
- 諦めない心 人生をあきらめかけて人を支える私たちが先に諦めてはいけない
- 援助関係づくり サービス拒否は支援者が拒否されてる
あなたを心配している。苦しい思いを受け止める
社会資源の活用は本人が主体化しないと始まらない

